



○ いいところでしょう!

2年生の東京研修旅行が終わりました。2日目には大学や企業を訪問、一部の生徒は高校生交流で川口北高校に訪問しました。どんなことを感じた1日だったでしょうか。



旅に出るとその土地のいろいろな人と出会います。会話に及んだ際、その土地の話になることがあります。相手の最初の言葉のニュアンスには2パターンあると思っています。

よく来てくれましたね・・・「いいところでしょう!」か、よく来ましたね・・・「なんにもないところでしょう~」かです。

現地ガイドさんやタクシーの運転手さん、お土産屋の店員さんやホテルの従業員さんなど、観光に関わるような人との場合は多くが前者です。

旅先でお土産以外の物を買う場合、最近はコンビニで済ませることが多く、そこで世間話をするのはまずありませんが、地元の人も相手にするようなお店や市場、また飲食店では、会話が弾むことがあります。その場合は、後者の発言を聞くこともあります。それはある意味本音だと思います。

私も知り合いが島根を訪れた際など、謙遜の意味もあって後者の発言をすることがあります。本当にそれでいいのか、地域課題解決学習を高校で進めるようになってから考えるようになりました。

昨年度から他県の高校が視察によく来られるようになりました。特に、地域共創人の育成に向けた教育活動が評価され、「三菱みらい育成財団」から賞をいただいてからはその頻度が多くなった気がします。河合塾の『Guideline10・11月号』でも先日紹介してもらいました。中核市松江のスケールメリットを生かした探究的な取り組みを通して、島根、松江を誇りに思い、知的好奇心を高め、新たな価値を地域と共働して創造しながら自己実現を図ることが、取り組みのめざすところの一つです。

他県から視察に来られた先生方に、「島根はいいところでしょう!」「松江東高校はいい高校でしょう!」とまずは自身が自信を持って語っていくことが大切です。

大学訪問やオープンキャンパスでは、学生が案内や説明をしてくれることがよくあります。今回の研修旅行でもそうでした。学生が自分の大学やそこの学びに誇りを持っているかどうか、それは最初の言葉がどちらのニュアンスかに集約されるかもしれません。

東北のある県を旅行した際、観光市場で買い物をしました。そこでは、もちろん商売なので物を売るため話しかけて来られますが、その言葉のはしばしから、この土地を好きになって帰ってもらいたいという気持ちが伝わってきました。「いいところでしょう! おいしいものをいっぱい食べて、楽しんで帰ってね!」と声かけられた時の店員さんの笑顔がとても印象的だったのを覚えています。